山間地域における住民の活力に関する考察
ー福島県伊南村を事例としてー

Study on Vitality of Residents in Mountainous Village
- The Case of Ina Village, Fukushima Prefecture -

○ 劉　鶴烈*　　千賀　裕太郎**
Hagyeol YOU　　Yutaro SENGA

1. 研究の課題と目的

地域活性化に向けた計画学的アプローチのためには、地域の現実を踏まえながら、より明確に活性化実態を把握・分析することが求められる。

しかしながら、山間地域における活性化実態の分析に関する既往の研究においては、おおむね地域経済、地域農業の側面から分析した研究は多くみられるが[1]、地域住民という視点から地域活性化の実態を捉えた研究は少ない。

そこで、本稿では、山間地域活性化の一側面として考えられる住民組織活動と集落行事に注目し、これらと相関性がある要素を析出することにより、山間地域住民の活力を図る基礎的評価指標を提示することを試みた。

2. 調査概要

調査対象地の伊南村は福島県の西南部に位置し、総面積 153.13km^2 でその約 94%が山林・原野である。中央を伊南川が北から南に貫流しており、その川に沿って 14 の集落が点在し、人口 1,923 人（2001 年）からなる典型的な山村である。

この地域を 2002 年 10 月から 12 月にかけて全 14 集落で住民アンケート調査、4 集落において実態調査（聞き取り調査、文献調査）を行った。

アンケート調査は、伊南村全世帯（各世帯 1 部）を対象に 588 部を配布、298 部が回収された（回収率 50.68%）。設問項目は、過去 40 年間の住民組織活動、集落行事、地域への愛着、住民間の交流と団結力の実態で、各項目別に 10 年ごとに 5 段階評価（強 5 ～弱 1）を求めた。また、集落づくりへの参加意識、地域リーダーの存在意識などの項目を加えた。実態調査では、4 集落において住民組織活動や集落行事の実態を調査した。

3. 結果および考察

3-1 相関に関する分析

分析に用いたデータは（表 1）、地域（集落）の活力を表わす目的変量として、住民組織活動（A1）と集落行事の実態（A2）を、そして、これらとの相関性を把握するための説明変量としては、地域リーダーの存在意識（B1）、若年層の活動実態（B2）、地域への愛着（B3）、住民間の交流（B4）と団結力（B5）、集落づくりへの参加意識（B6）、集落課題に対しての住民意識（B7）とした。

表 1　分析に用いたデータ

	変　量	変量抽出内容	単位
A1	住民組織活動	過去 40 年間の 5 段階評価平均値	数値
A2	集落行事実態	過去 40 年間の 5 段階評価平均値	数値
B1	地域リーダー	地域リーダーの存在有・無意識	%
B2	若年層の活動	若年層の集落活性化への活動実態	%
B3	地域への愛着	過去 40 年間の 5 段階評価平均値	数値
B4	住民間交流	過去 40 年間の 5 段階評価平均値	数値
B5	住民間団結力	過去 40 年間の 5 段階評価平均値	数値
B6	住民参加意識	講演会、行事などへの参加意識	%
B7	住民問題意識	集落諸課題に対しての住民意識	%

それぞれの相関を分析した結果、表 2 にみるように、住民組織活動と正の相関を表わす変量は、地域リーダーの存在、若年層の活動、地域への愛着、参加意識、住民間の交流と団結力である。そのうち、とくに地域リーダーの存在と若年層の集落づくりへの積極的な活動が住民組織を活性化させる重要な要素であることがわかった。そして、集落行事との相関をみると、住民間の交流、若年層の活動、地域への愛着、地域リーダーの存在、住民間の団結力と正の相関をみせている。

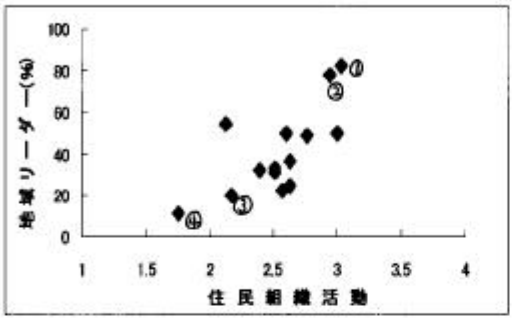
表 2　単相関係数

住民組織活動		集落行事	
説明変量	相関係数	説明変量	相関係数
リーダーの存在	0.693	住民間の交流	0.774
若年層の活動	0.668	若年層の活動	0.747
地域への愛着	0.640	地域への愛着	0.626
住民参加意識	0.611	リーダーの存在	0.594
住民間の交流	0.554	住民間の団結力	0.511
住民間の団結力	0.554	住民参加意識	0.122
住民問題意識	−0.012	住民問題意識	−0.006

＊　東京農工大学大学院連合農学研究科（United Graduate School of Agricultural Science,Tokyo Univ.of Agr.and.Tech）
＊＊東京農工大学農学部（Faculty of Agriculture,Tokyo Univ.of Agr.and.Tech）　住民活力、相関係数、山間地域

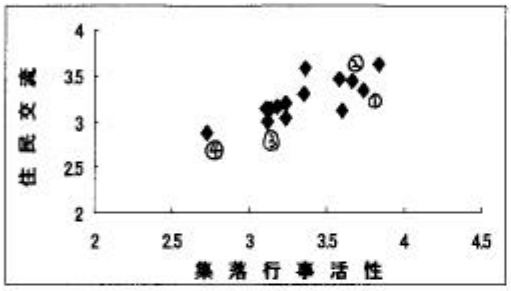
3-2　集落間実態比較

ここでは、前節の相関に関する分析を実証するために、目的変量と説明変量との相関係数が最も高い、住民組織活動と地域リーダーの存在及び集落活動と住民間の交流を散布図に描くと、大桃、青柳集落と白沢、大原集落が対照的な位置にあることがわかった（図1，2）。



注：①大桃、②青柳、③白沢、④大原集落

図1　住民組織活動と地域リーダーとの相関性



注：①大桃、②青柳、③白沢、④大原集落

図2　集落行事と住民交流との相関性

そこでこれら2つの集落グループを比較する。

表3にみるように、大桃、青柳集落では、自治会、老人会、婦人会、青年会、実行委員会（表3下記の注参照）といった住民組織があり、そのうち自治会、老人会、婦人会、実行委員会の活動がとくに目立っている。自治会は、総会などの集落基本運営や村（役場）との行政連絡機能、伝統年中行事の主管などを担っている。老人会、婦人会はボランティア活動と集落行事に積極的に参加、協力している。そして、実行委員会は集落独自のまつり、イベントを企画、実行するなど集落活性化への主導的な役割を果たしている。

これに対し、白沢、大原集落では、自治会と老人会だけが多少活発な活動を行っている程度で、他の組織では加入者も少なく目立った活動は行っていない。

次に、集落行事の実態をみると、白沢、大原集落の場合、1980 年代までは、多様な伝統年中行事が行われてきたが、それ以後、消滅または中断された。現在は社寺普請、山道普請などといった集落住民の共同作業が行われている程度で、集落独自のイベントはない。

これに対し、大桃、青柳集落では、歳の神、雷神祭、地蔵講など多様な伝統行事が、今日まで維持・保存され活発に行われているし、集落独自のイベントも盛んである。

表3　住民組織と集落行事の集落間比較

	説明変量値が高い集落		説明変量値が低い集落	
	大桃集落	青柳集落	白沢集落	大原集落
住民組織	自治会、老人会 婦人会、子供会 青年会 実行委員会[a]	自治会、老人会 婦人会、青年会 実行委員会[a] スポーツクラブ 久川城太鼓後援会 久川城太鼓保存会	自治会 老人会 婦人会	自治会 老人会 婦人会
伝統年中行事	歳の神、堰普請 雷神祭、旧節句 駒ヶ岳代参 愛宕様祭り 二百二十日 焼日、天神講	歳の神 山祭り せき普請 山道普請 鹿島神社祭礼	堰払い 山道普請 三区普請 田植風祭 社寺普請	社寺普請
イベント	雪祭典、収穫祭 秋の祭り	都市民との交流会 久川城まつり	なし	なし

注：1）実行委員会とは、大桃集落では「心のふるさと創造実行委員会」青柳集落では「むらおこし実行委員会」をいう。

2）伝統年中行事とイベントは 2002 年度に実際に行われた例である

4. 結論

山間地域において、住民組織活動、集落行事と正の相関がみられた要素を析出し、さらに、実態調査を実施してその相関を実証した。

その結果、地域リーダーの存在、若年層の集落づくりへの積極的な活動、地域への愛着、住民間の交流と団結力といった要素と住民組織活動及び集落行事との相関が高いことがわかった。

これらの要素を山村地域における住民の活力を図る基礎指標として用いれば、特に、沈滞している山村地域における住民の活力を把握することができ、活性化に向けての展開可能性を評価することができると思われる。

＜注＞

1) 例えば、中村　和夫（1995）と橋詰　登（1996）などがある。

＜参考文献＞

中村　和夫（1995）：中山間地域の活性化とその類型化、農業および園芸、第 70 巻第 1 号

橋詰　登（1996）：中山間における地域活性化の現状と農業活性化要因、農業総合研究 50、(2)

劉　鶴烈・千賀　裕太郎（2002）：住民主導型集落づくりの起動期の実態に関する考察、農村計画論文集（4）